

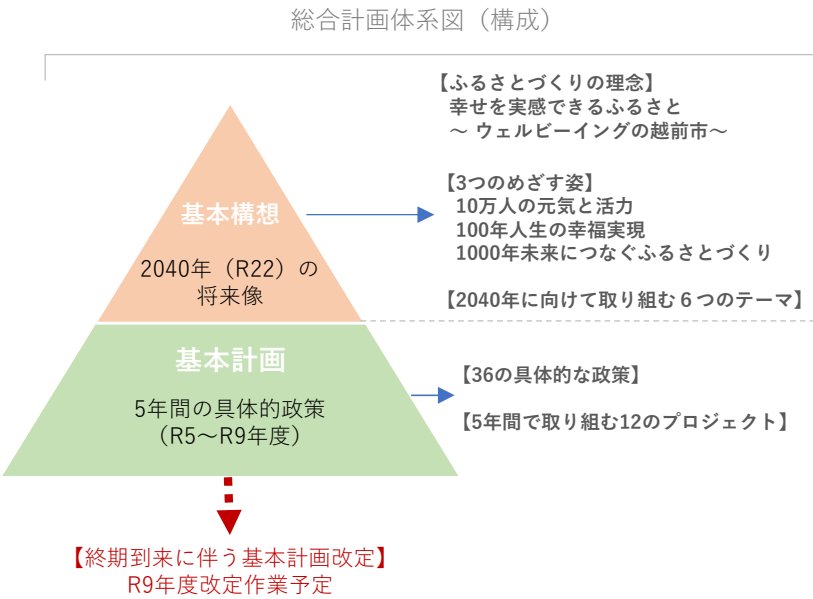
1. ウェルビーイング指標について

(1) ウェルビーイング指標の概要

市民の幸福実感の状態を「主観的指標」と「客観的指標」の2軸で測る、越前市独自の指標

- ・ 総合計画2023の理念「**幸せを実感できるふるさと ～ウェルビーイングの越前市～**」の実現に向け、市民が直面する課題の解決や、居場所・舞台づくり（※）に取り組んでいる。
- ・ 年度ごとに市民の幸福実感の状態を把握し、政策サイクルへ反映すること、その結果を市民に共有することを目的に、令和6年度に「**ウェルビーイング指標**」を設定。
- ・ 市民アンケートによる「**幸せ実感指標（主観的指標）**」13項目と、統計データ等による「**政策推進指標（客観的指標）**」20項目の計33項目で構成し、毎年度、直近値を公表している。

※ 居場所・・・地域の人と心地よくつながり、自分らしく居られる場所
舞 台・・・自分の可能性を引き出し表現できる場所

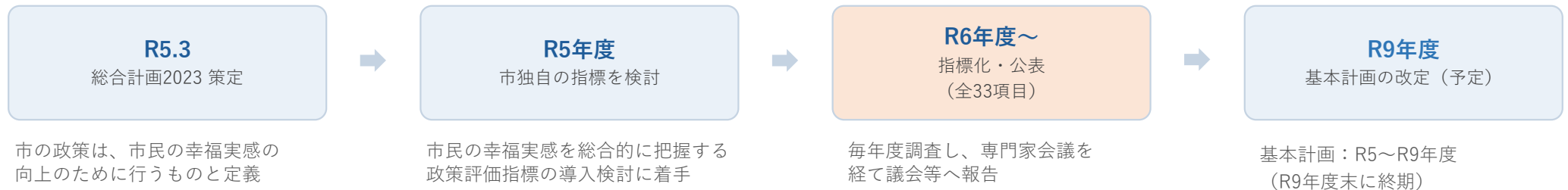


■ 指標を構成する項目（抜粋）

項目の分類（総合計画「3つのめざす姿」）			
	10万人の元気と活力	100年人生の幸福実現	1000年未来につなぐふるさとづくり
指標	幸せ実感指標（主観的指標） 市民へのアンケート調査にもとづく指標 【13項目】 （5段階評価 本人意向との合致度 5>1）	例） 「本市に魅力や誇りがあり自慢できると思うか」	例） 「住んでいる地域の10年後の未来は明るいと思うか」 「地域の治安が良く、安全で安心して暮らせると思うか」
	政策推進指標（客観的指標） 市民のウェルビーイングとの関係性が高い統計データ等から引用した指標 【20項目】	例） ・ 製造品出荷額等 ・ 観光客入込実人数	例） ・ 本市で生まれ育ったコウノトリの数 ・ 地域のつながり指数 （自主防災組織率・福祉推進員設置率）

1. ウェルビーイング指標について

■ 指標策定の経過



■ 指標検討にあたっての方向性

① 主観・客観の2軸で測る	② 市の政策が届く項目を設定する	③ 市民にわかりやすいものにする
統計上の結果が良くても、市民一人ひとりが幸せとは限らない。 一方、個人の実感だけでは中長期的な状態を把握しにくい。 【方向性】 市民アンケートによる「幸せ実感指標」（主観的指標）と、統計データ等による「政策推進指標」（客観的指標）の2軸で相互に補完する。	幸福の実感は、地域や時代によって異なるため、全国一律の評価手法では、本市の実態とのズレが生じる恐れがある。 また、国策やグローバル市場など外部環境の影響の大きいものは、自治体の政策の目標や成果とはなりにくい。 【方向性】 市が有する戦力や手段（政策）に応じて、項目や目標値を設定する。 （項目の規模感や目標値は、大きすぎず、小さすぎない）	市民の幸福実感（ウェルビーイング）の状態について、市民がわかりやすいものにする必要がある。 【方向性】 市民とのコミュニケーションツールとして活用するため、項目を絞り、総合計画「3つのめざす姿」ごとに分類する。

1. ウェルビーイング指標について

(2) 令和8年度 公表値（直近値）

めざす姿		項目	令和6年度 公表値 (令和5年度の状況)	令和7年度 公表値 (令和6年度の状況)	令和8年度 公表値 (直近値 令和7年度の状況)	目標値 (令和9年度の状況)
10万人の 元気と活力	幸せ実感指標 (主観的指標)	本市に魅力や誇りがあり自慢できると思うか	3.3	3.4	3.1	-
		通勤できるところに働きたい職場があり、概ね満足な所得が得られているか	3.1	3.1	3.0	-
	政策推進指標 (客観的指標)	社会増減数（日本人）（国勢調査実数 15歳・20歳・25歳）	- 246人 ※R2	- 246人 ※R2	- 246人 ※R2	0人
		越前市の認知度（首都圏調査）	10% ※R4	10% ※R4	15%	20%
		県外のふるさと納税者数（延べ）	55,697人	30,890人	22,964人	85,000人
		市外からの観光客入込実人数／市外からの観光消費額	87万人/35億円	118万人/47億円	109万人/53億円	120万人/50億円
		製造品出荷額等	6,930億円 ※R4	7,040億円 ※R4	8,053億円 ※R5	7,700億円
		重要文化財数（国指定）	11件	11件	11件	13件
		有機農業面積（その割合）	276ha(7.7%)	326ha(9.1%)	312ha(8.7%)	358ha(9.9%)
100年 人生の 幸福実現	幸せ実感指標 (主観的指標)	地域に自分の居場所があると思うか	3.7	3.7	3.5	-
		地域に自己表現や活躍できる場があると思うか	3.1	3.1	3.0	-
		おおむね健康で、元気に暮らしていると思うか	4.0	4.0	3.7	-
		子育てがしやすいと思うか	3.5	3.6	3.4	-
		教育環境はよいと思うか	3.6	3.6	3.5	-
	政策推進指標 (客観的指標)	介護いらず平均年齢（越前市独自算出） ※65歳以上の人が初めて要介護認定された過去3か年の平均年齢	男 82.95歳 女 84.93歳	男 82.95歳 女 85.09歳	男 83.13歳 女 85.19歳	男 85歳 女 89歳
		生産年齢人口のうち18歳～64歳の人口（外国人含む）（住民基本台帳人口）	44,362人	44,675人	44,530人	43,500人
		待機児童数	0人	0人	0人	0人
1000年 未来につなぐ ふるさと づくり	幸せ実感指標 (主観的指標)	学校に行くのが楽しいと思う小中学生の割合	89%	88%	90%	100%
		週1回以上のスポーツ実施率（16歳以上）	58.6%	55.2%	57.7%	67.7%
		えちぜん市民大学受講者数（実数）	832人	824人	771人	850人
	政策推進指標 (客観的指標)	住んでいる地域の10年後の未来は明るいと思うか	2.8	2.8	2.8	-
		行きたいところに行ける交通手段があると思うか	3.2	2.9	3.0	-
		災害時に地域で助け合う関係があると思うか	3.3	3.3	3.2	-
	政策推進指標 (客観的指標)	お住いの地域は、治安が良く、安全で安心して暮らせる地域だと思うか	3.9	3.9	3.8	-
		娯楽や趣味など学習できる場が十分にあると思うか	3.0	3.0	2.9	-
		身近な自然が守られていると思うか	3.8	3.8	3.5	-
	政策推進指標 (客観的指標)	本市で生まれ育ったコウノトリの数	6羽	7羽	5羽	1羽以上
		デマンド交通などを含む、新交通システムの人口（地区）カバー率	30.5%	55.8%	100%	100%
		必要な消雪設備整備率	73.0%	75.0%	83.7%	96.1%
		自治振興会事業の参加者数	92,199人	105,906人	103,431人	130,000人
	政策推進指標 (客観的指標)	地域のつながり指数（自主防災組織率・福祉推進員設置率）	自主防災組織率 99.1% 福祉推進員設置率 99.2%	自主防災組織率 99.1% 福祉推進員設置率 99.2%	自主防災組織率 99.1% 福祉推進員設置率 99.2%	自主防災組織率 100% 福祉推進員設置率 99.2%を維持
		避難行動要支援者に対する避難支援者の登録割合	41%	64%	66%	100%
	政策推進指標 (客観的指標)	J-クレジット化したCO2の削減トン数	-	-	684t	1,000t

【令和8年度 公表値について】 前年度（令和7年度）の状況を把握するものとして、以下の方針で収集したデータ等から引用

- ・主観的指標
- 市民アンケート結果（R8.3～4／4,000人配布・1,176件回答） ※5段階評価（5＞1）の平均値
- ・客観的指標
- 特記（※）を除き、令和7年度の値（特記のものは現時点で取得可能な最新値）

2. ウェルビーイングに関する共同研究について（9月補正予算）

（1）目的

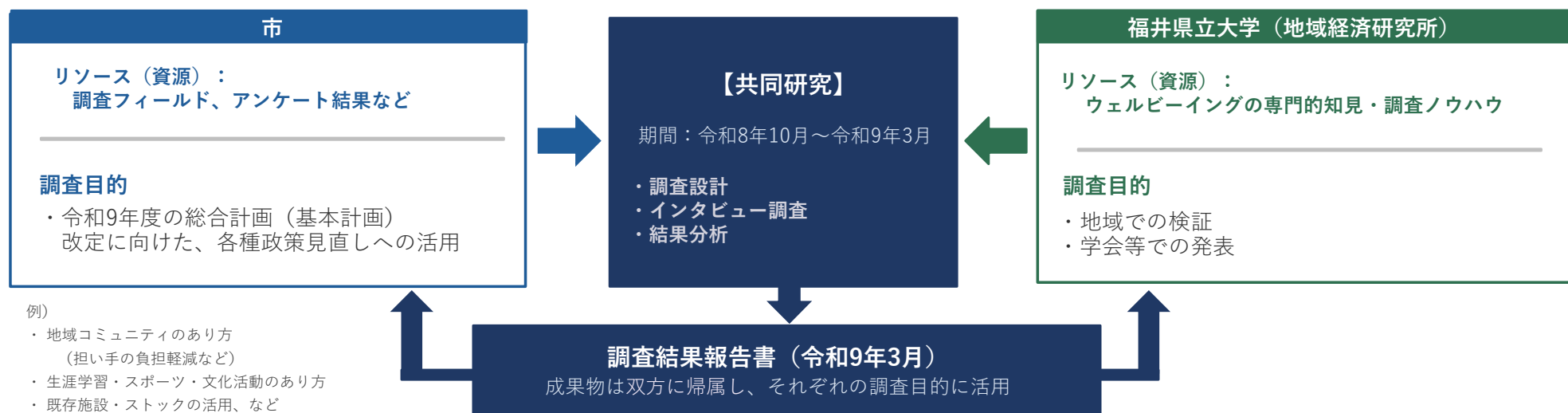
令和9年度に予定する総合計画（基本計画）の改定にあたり、市民の幸福実感との相関関係が見られる「居場所」「舞台」について、その成り立ちや作用等を福井県立大学と共同で研究し、各種政策の見直し等に活用する。

共同研究相手方：福井県立大学（担当：地域経済研究所 高野 翔 准教授）

（2）実施体制・予算計上額

■ 実施体制

市と大学それぞれが、調査目的とリソース（資源）を持ち寄り、共同で実施



■ 予算計上額

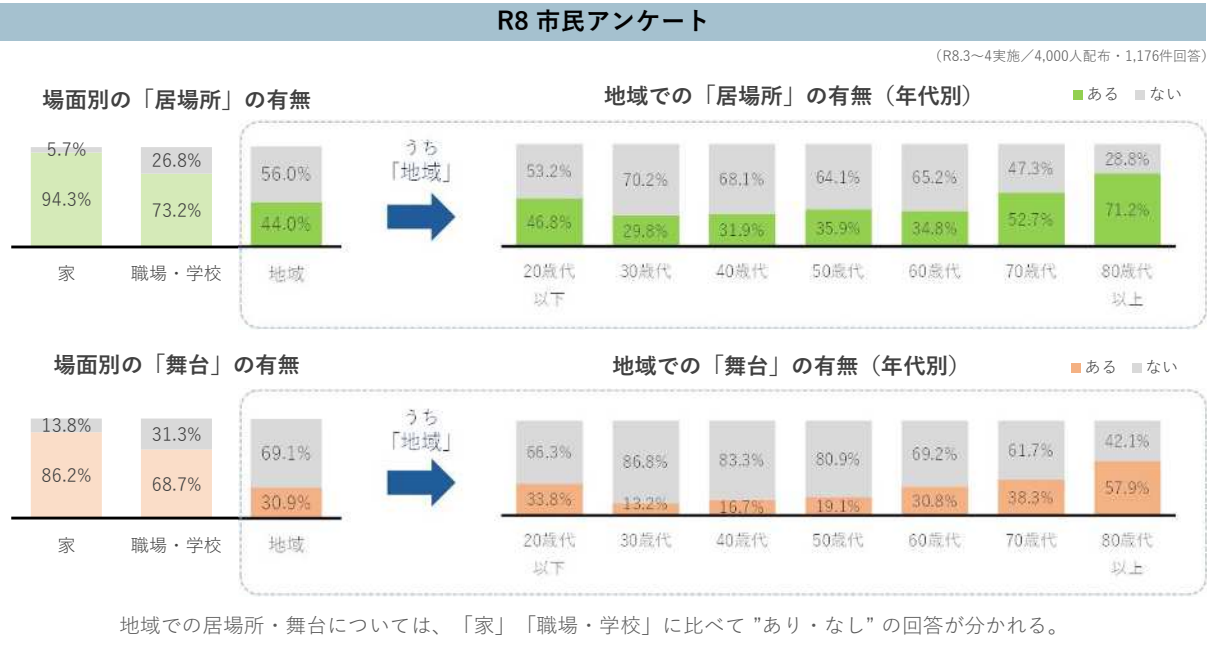
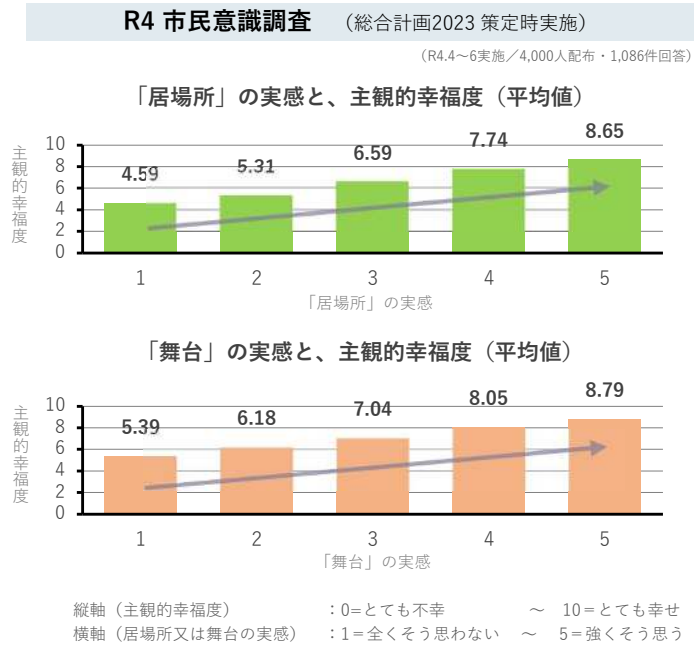
負担金 850千円（財源：県補助金1/2、一般財源1/2）

※ 調査実施に係る実費相当分（文科省方針に基づく県立大学研究取扱規定に応じて対応）

2. ウェルビーイングに関する共同研究について（9月補正予算）

(3) 調査の概要

■ 実施の背景（これまでに確認されていること）



→ 居場所・舞台の実感と主観的幸福度との間に相関関係が見られる

→ 年代層が高いほど、地域での居場所・舞台が「ある」と回答した割合が高く、現役世代では回答が分かれる

▼ 地域での居場所・舞台の「ある」「ない」を分ける要因や背景を中心に調査

■ 調査方法

年代層別に調査グループを設定し、「ある」「ない」双方の立場から、その要因や地域との関わりに対する意識等について、インタビュー調査を実施（10～15グループ程度）

年代層	調査の視点
高齢層	地域における居場所・舞台が「ある」と回答した方が多い年代層 公共施設の利用者や、活動コミュニティなどを中心に、関わり方や役割が幸福実感にどう作用しているかを確認
現役世代 （若年層～中年層）	学業・仕事・子育て等のライフステージを迎えている年代層（地域における居場所・舞台が「ある」と回答した方は少なめ） 生活実態等も踏まえ、関わり方のきっかけや、負担感などの意識を確認

令和9年度の総合計画（基本計画）改定に向けた、各種政策見直しへの活用

- 例）・ 地域コミュニティのあり方（担い手の負担軽減など）
・ 生涯学習・スポーツ・文化活動のあり方
・ 既存施設・ストックの活用、など